

太平洋空軍司令官、嘉手納基地を訪問

第18航空団広報局



(米空軍：サムエル・モース一等軍曹撮影)

2012年10月26日から29日の3日間、太平洋空軍司令官ハーバート「ホーク」カーライル大將が、就任後初めて嘉手納基地を訪問し、基地内施設の視察や空軍隊員への講話を行いました。講話の中で、カーライル大將は太平洋地域における米軍の存在意義、空軍の優先事項等について意見を交わしました。カーライル大將は「日々の即応体制をいかに維持するかということが重要」と述べ、即応体制が最優先事項の一つであると強調しました。講話の中で、10月15日から26日まで嘉手納基地で実施された監査について触れ、航空団が監査に合格したことを発表しました。

さらに、カーライル大將は日本国に駐留する米軍人として良き親善大使になること、そして軍人に課せられた外出禁止令について

話しました。「諸君が基地の外に出る度に、また日本に駐留している間に関わる全ての方々にとって、諸君はアメリカ合衆国且つ米国空軍の代表である。それを深く理解し、一人一人の行動が日本国との同盟関係、個々の友好関係にどれだけ影響を及ぼすのかを強く認識する必要があります」と話しました。軍人と同様に、空軍兵を支える家族への支援も引き続き優先事項とし、家族の支えがあるからこそ空軍兵も任務に集中できると述べ、日々の任務と家族のサポートを労いました。

米国空軍長官、嘉手納を訪問

第18航空団広報局

11月21日(金)、アジア・太平洋地域を訪問中のマイケル・ドンリー空軍長官が嘉手納基地に立ち寄りました。空軍長官は空軍省における文民の最高位にあたります。ドンリー長官は、2008年に第22代空軍長官に就任。今年で空軍でのキャリアは40年になります。

訪問中、ドンリー長官は嘉手納の空軍兵と一緒に朝食を取ったり、第18航空団司令官マロイ准将やマーク・マーソン最上級曹長に案内され基地内を回りました。キーストン・シアターでは、集まった嘉手納基地の空軍兵に向けて語りかけました。「空軍長官になって一番良いことはなにかとよく聞かれます。それは現場で真摯に任務に当たる空軍兵に会えることです。そのような姿をみることは指導する側にとっても大きな刺激になります」と述べました。また、10月に行われた第18航空団監査の成果を高く評価し、米国の祝祭の季節が近づいていることについてふれ、「今も昔も変わらず言えることですが、空軍兵やその家族は計り知れないほどの犠牲を払

い我々の空軍と米国に仕えています。今年も多くの空軍の家族が本国から遥か離れた土地で感謝祭やクリスマスを迎えます」と遠隔地にて任務を遂行する空軍関係者の労をねぎらい、米国空軍としての更なる団結を呼びかけました。



(写真全て、米空軍：マリア・ジェンキンス上等兵撮影)



即応態勢監査 第18航空団広報局



(米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)



(米空軍：マリア・ジェンキンス上等兵撮影)



(米空軍：ダネル・ケステイ上等兵撮影)



(米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)

ハワイ州から来沖した太平洋空軍による監査が、10月15日から10月26日の2週間にわたり実施されました。約250人の監査官が、第18航空団の各部隊の任務遂行に関する準備体制や遂行能力を検査しました。監査は2部に分かれ実施されました。

第1部は Consolidated Unit Inspection (統合部隊監査) と呼ばれ、同航空団の部隊が空軍の指示、チェックリスト、運用手続きを順守しているかどうか監査の対象になりました。

装備を備えているか、必要とされている能力を達成できる用意ができていないか、割り当てられた任務を実行できるかどうかなどの点検がありました。各組織の健全性や運用能力に不可欠で重要である規則の順守や任務内容が監査されました。

第2部では、実践的な分野の監査で、嘉手納基地の部隊の配備、平時から戦闘準備に移行する即応準備態勢、そして任務の実行を維持し持続させる能力が試されました。同監査に備え、これまで嘉手納基地の航空兵は、各部隊において監査訓練や運用即応訓練を実施してきました。また部隊によっては、他の部署の隊員に点検してもらい、改善に向けてのアドバイスを受ける機会も設けました。同即応監査とは別に、後方支援、環境安全、就業健康、法務関係の監査も同時に行われ、複数の監査が同時期に嘉手納基地内で実施されたのは初めてのことでした。

監査終了後の10月29日には、キーストン・シアター講堂にて航空兵が召集され、第18航空団司令官マット・モロイ准将から、監査結果が「Satisfactory (可)」であったことが報告されました。また監査期間中には、複数の台風の襲来、南西アジアとアラスカへの航空機派遣、上級本部からの命令による地域内での運用派遣と重なったために、監査と実際の運用活動を両立させることが大変であったにもかかわらず、満足な結果に終わったことが述べられました。監査官による総合的な評価として、第18航空団は主な監査対象項目では全ての要件を満たしていることが確認されました。



(米空軍：ブルーク・ピアース上等兵撮影)

軍用地地主会の視察訪問 第18航空団広報局

11月20日、北谷町軍用地等地主会より約30名の会員が、嘉手納基地を訪問しました。嘉手納基地部隊 任務に関する概況説明を受けた後、同基地内の北谷町側に所在する「ウカマジー (防空壕跡)」、「アシビナー (広場跡)」、「ニシヌカー (井戸跡)」、「シーグアー (拝所)」を視察しました。同地主会としては、これまで基地内視察を行ったことがなく、基地の状況や文化財等の理解を深める目的で訪問しました。12月12日には、泡瀬軍用地地主会より約30名の会員が同様の視察に訪れました。